

じょうさい smile

城西中学校だより
令和8年3月24日
校長 家永 裕行

3年生が巣立っていきました

第63回卒業証書授与式を3月6日（金）に行い、129名の卒業生（3年生）が巣立っていきました。卒業式へは3年生、ご家族、職員及び2年生が参加しました。また、来賓の方々にもご臨席いただきました。

式辞では「皆さんは、これから変化の速い時代を生きていきます。AIをはじめとする技術革新は、私たちの暮らしや働き方、そして価値観さえ、大きく変えつつあります。便利さや効率が増す一方で、人間にしかできないこととは何か、自分らしい生き方とは何かを、より深く問い直す時代です。予測困難なこともあるでしょう。今ある職業が将来もあるとは限らず、逆に今は存在しない仕事に就くかもしれません。だからこそ、知識だけでなく、知識を活用して課題を解決する力、そして何より『自分で考え、選び、行動する力』が求められます。刺激的でチャレンジングな時代です。もしかしたら変化の速さや不確実性にたじろぐこともあるかも知れません。そのような時は、城西中で仲間と学んだこと、成し遂げたことを思い出して、しなやかに乗り越えてください」と、卒業生にはなむけの言葉を送りました。

生徒会長は送辞の中で「先輩方は自分自身の夢に向かい、全力で踏み出されます。その力強い後ろ姿に学んで、私たちも前進します。これからは私たちが、先輩が築いてこられた城西中学校を引き継ぎ、先輩方が母校として誇れる城西中学校を創り上げていきます」と述べ、前生徒会長は答辞の中で中学校時代の思い出を振り返り、先生や後輩、家族、仲間へ感謝を伝えながら、「私たちは今日、この学び舎を巣立ち、それぞれの新しい道へ進みます。不安もありますが、この学校で出会った仲間、支えてくださった方々への感謝、そしてここで学んだ多くのことを胸に、前を向いて歩いていきます」と結びました。2年生の今後のリーダーシップと卒業生のさらなる飛躍を感じさせるものでした。また、保護者代表の方からは「義務教育を終え、これまでとは違う難しい問題にあたることもあるかも知れません。一人では解決できないこともあるでしょう。困ったときは、友達を、先生を、そして保護者を頼ってください。私たち保護者は一番の応援団です」とエールを送っていただきました。

閉式後、卒業生が「大地讃頌」と「旅立ちの日に」を合唱しました。その力強い歌声は式に参加した人の記憶に残ると思います。

卒業生は高等学校や専修学校等に進みます。それぞれの進路で学びを深めて大きく羽ばたいてほしいと願っています。



写真左から「卒業証書授与」「卒業生の学年合唱」「園・小学校・元城西中学校の先生方等から寄せられたたくさんのメッセージ（体育館の入り口付近）」「卒業生を勇気づける歌詞が紹介された保健の掲示板」

城西中トピックス

1. 先輩に学ぶ「県立高校編」(2年生)

3月3日、本校の卒業生で、現在佐賀市、小城市、神埼市の県立高校に通う高校2年生の先輩に来校いただき、本校2年生を対象に高校生活や学校の特色についてお話しいただきました。1月に実施した「私立高校編」に続く取り組みで、直接話を聞くことで各校の特徴を知り、進路意識を高め、目的意識をもって中学校生活を送ることをねらいとしています。



当日、生徒はメモを取りながら熱心に耳を傾け、積極的に質問する姿も見られました。高校での学習の様子や部活動、学校の雰囲気など、ホームページやパンフレットだけでは分からないリアルな話に触れることができました。また、前回と同様に実行委員を選出し、司会や誘導などの運営を自分たちの手で行いました。

2. 職業人に学ぶ(1年生)

3月4日、進路学習の一環として、さまざまな職業で活躍されている方々から直接お話を伺う機会を設けました。生徒は興味や関心に応じて複数のコースに分かれ、それぞれの職業についてお話を聞きました。実際に働く方の生の声に触れることで、仕事の喜びややりがいなど、初めて知ることも多かったようです。生徒たちは職業をより身近に感じ、将来の進路についての意識がいつそう高まった様子でした。

また、お話しいただいた8名の方からメッセージを寄せていただきました。後日、廊下に掲示したところ、足を止めて読み入る生徒の姿も見られました。

お世話になりました

このたびの定期異動により、15名の職員が城西中学校を離れることになりました。これまで温かいご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本来であれば直接ご挨拶に伺うべきところではございますが、紙面にてご挨拶に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。



校庭(体育館北側)の桜が咲き始めました。まだ数輪ですが、3月の終わり頃には、きっとたくさんの花を咲かせてくれることでしょう。春は出会いと別れの季節です。桜の花には、うれしさの中にどこかもの悲しさも感じられます。(3月22日撮影)